

としょかんゆうびん 中学年向け 令和3年夏

相生市立図書館 0791-23-5151

7・8・9月の行事とカレンダー

- ・体調の悪い人は行事に参加できません。
- ・行事に参加するときは、手指の消毒とマスクの着用をお願いします。

えいが会

7/17 (土) 10:30~11:30
「ミッキーマウス」
「かんすけさんとふしぎな自転車」
「おおかみと七ひきのこやぎ」

人形劇

7/18 (日) 11:00~11:30
「赤ずきんちゃん」
9/19 (日) 11:00~11:30
「おとなしいめんどり」

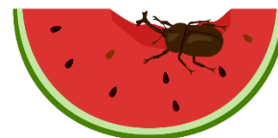
トーンチャイム

8/7 (土) 11:00~11:30
サマー♪コンサート…アンダーザシーほか

シネマサロン

7/24 (土) 14:00~
「フランダースの犬」(90分)
8/14 (土) 14:00~
「クボ 二本の弦の秘密」(103分)
9/11 (土) 14:00~
「リボンの騎士」(63分)

夏休み中は、ほかにも
特別イベントがあります！
くわしくは図書館まで



おはなし会

7/25 (日) 11:00~11:30
えほん『あおくとときいろちゃん』、おはなし「ねずみのすもう」ほか
8/22 (日) 11:00~11:30
えほん『おやすみなさいおつきさま』、おはなし「せかいいちのおんどり」ほか
9/26 (日) 11:00~11:30
えほん『おさるとぼうしうり』、おはなし「とりつこうかひっつこうか」ほか

7月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	*	*	*	*

9月

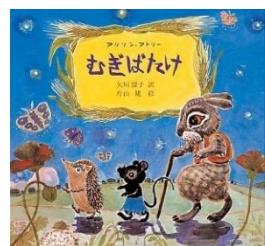
日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	*	*

…お休み 開館時間…午前9時~午後7時

なつ ほん 夏におすすめの本

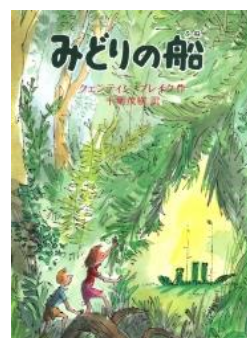
『むぎばたけ』 アリスン・アトリー・作 片山健・絵 矢川澄子・訳//福音館書店//P-ア

夏の夕べ、ハリネズミが小さな声でうたを口ずさみながら野道を歩いています。むぎがのびるところを見に、むぎばたけへ向かっているところでした。とちゅうでノウサギのジャックじいさんに会い、さらに小川の土手にいたカワネズミも加わって、三びきはむぎばたけに向かって歩みをすすめます。



『みどりの船』 ケンティン・ブレイク・作 千葉茂樹・訳//あかね書房//P-ブ

アリスとぼくは、夏休みの二週間をいなかのおばさんの家ですごしていた。たいくつしはじめた二人は、ある日、入ってはいけないと言われていたおやしきの庭にもぐりこむ。そこは草木が生いしげり、大きな森のようだった。おくへと進んでいくと、ひらけたところにとつぜん船があらわれた。二人が船の中に入っていると、外から声が聞こえてきて…。



『年をとったひきがえる』 バーニース・フレシェット・文

ロジャー・デュボアザン・絵 はるみこうへい・訳//童話館出版//P-フ

ある池に年をとったひきがえるが住んでいた。あつい夏の日、ひきがえるは岩の上で日光浴をしていた。そこへ、おなかをすかせたサギがやってくる。サギは、とてもゆっくりと注意深く動き、魚をとらえる。そしてサギは、ひきがえるの方に向かい…。

『霧のむこうのふしぎな町』 柏葉幸子・作 杉田比呂美・絵//講談社//91-カ

小学6年生の夏休み、上杉リナはお父さんの思いつきで、知りあいに住んでいるという霧の谷へ一人で行くことになります。リナはなんとか霧の谷へたどり着きますが、そこに待っていたのはいじわるなおばあさんでした。「はたらかざるもの、食うべからず」というおばあさんの言葉にしたがい、リナは町の通りにあるお店へはたらきに行きます。最初は、自分には何もできないと言っていたリナでしたが…。

『指ぬきの夏』 エリザベス・エンライト・作 谷口由美子・訳//岩波書店//93-エ

9歳のガーネットは、家族と谷間にある小さな村の農場でくらしています。ある夏、何週間か雨のふらない日照りが続き、生活は苦しくなっていました。そんなある日の夕方、ガーネットは兄のジェイと泳ぎに行った川で、すなの中に銀色の指ぬきがうまっているのを見つけます。するとその夜、待望の雨が…。

『オンネリとアンネリのおうち』

マリヤッタ・クレンニエミ・作 マイヤ・カルマ・絵 渡部翠・訳//福音館書店//99-ク

別々にくらす両親の家を^{いえ}行き来しているアンネリと、9人兄弟の^{にんぎょうだい}ちょうどもんなかで家の^{いえ}中に^{なか}いばしょがないオンネリは、^{にゅうがくしき}入学式で^あい^いで^い出会って以来の親友です。夏休みに^{なつやす}に入った最初の日、二人は^{ふたり}お金の^{かね}入ったふうとうを^{ひろ}拾います。もとあった^{ばしょ}場所にもどそうとして^{ひとり}いると、一人のおばあさんには^{はな}話しかけられます。その^あ出^で会いが^{ふたり}きっかけで、二人は自分たちだけの^{いえ}家を^て手に入れることに。ゆめのように^{いえ}すてきな家で^{たの}楽しく^いすごしますが…。

つづきに『オンネリとアンネリのふゆ』があります。



ほかにもあるよ！ おすすめの本

『川はながれる』

アン・ランド・文 ロジャンコフスキー・絵 掛川恭子・訳//岩波書店//P-ラ

北国^{きたぐに}の山^{やま}お^{もり}くの森^{ちい}で、^{かわ}小さな川^{かわ}がう^{なが}まれた。川は^{なが}どこかに^{なが}流^{なが}れていくもの^{なが}だ^{なが}という^{なが}ことは知^しっていたが、^しどこへ^しい^しけば^しいい^しのかは^し知^しら^しな^しか^しつ^した。出^あ会^あった^あ動^あ物^あたち^あに^あた^あず^あね^あな^あが^あら、山^{やま}から^{やま}ふ^{やま}も^{やま}との^{やま}平^{やま}野^{やま}へ、^{やま}平^{やま}野^{やま}から^{やま}湖^{やま}へ、^{やま}湖^{やま}から^{やま}ま^{やま}ち^{やま}な^{やま}か^{やま}へ、^{やま}ま^{やま}ち^{やま}な^{やま}か^{やま}から^{やま}野^{やま}原^{やま}へ、^{やま}野^{やま}原^{やま}から^{やま}ぬ^{やま}ま^{やま}ち^{やま}へ、^{やま}そ^{やま}し^{やま}て^{やま}よ^{やま}う^{やま}やく^{やま}海^{やま}へ^{やま}と^{やま}た^{やま}ど^{やま}り^{やま}つ^{やま}く。

『ポッパーさんとペンギン・ファミリー』

R&F・アトウォーター・著 R・ローソン・絵 上田一生・訳//文溪堂//93-ア

ペンキ屋^やさん^やの^やポ^やッ^やパー^やさん^やは、^{ふたり}お^{ふたり}く^{ふたり}さん^{ふたり}と^{ふたり}二^{ふたり}人^{ふたり}の^こ子^こども^こと^こス^こティ^こール^こウ^こォ^こター^こという^{まち}町^{まち}に^{まち}住^{まち}ん^{まち}で^{まち}い^{まち}ま^{まち}し^{まち}た。ポ^やッ^やパー^やさん^やは、^{なんきょく}南^{なんきょく}極^{なんきょく}や^{なんきょく}北^{なんきょく}極^{なんきょく}の^{ほん}本^{ほん}を^{ほん}読^{ほん}む^{ほん}の^{ほん}が^{ほん}好^{ほん}き^{ほん}で、^{とく}特^{とく}に^{とく}ペン^{とく}ギ^{とく}ン^{とく}の^{とく}こ^{とく}と^{とく}が^{とく}大^{とく}の^{とく}お^{とく}気^{とく}に^{とく}入^{とく}り^{とく}で^{とく}し^{とく}た。ある^{なんきょく}日^{なんきょく}、^{なんきょく}ポ^{なんきょく}ッ^{なんきょく}パー^{なんきょく}さん^{なんきょく}の^{なんきょく}も^{なんきょく}と^{なんきょく}に^{なんきょく}南^{なんきょく}極^{なんきょく}から^{なんきょく}荷^{なんきょく}物^{なんきょく}が^{なんきょく}と^{なんきょく}ど^{なんきょく}き^{なんきょく}ま^{なんきょく}す。南^{なんきょく}極^{なんきょく}た^{なんきょく}ん^{なんきょく}け^{なんきょく}ん^{なんきょく}か^{なんきょく}の^{なんきょく}ド^{なんきょく}レ^{なんきょく}イ^{なんきょく}ク^{なんきょく}て^{なんきょく}い^{なんきょく}と^{なんきょく}く^{なんきょく}から^{なんきょく}送^{なんきょく}ら^{なんきょく}れ^{なんきょく}て^{なんきょく}き^{なんきょく}た^{なんきょく}も^{なんきょく}の^{なんきょく}で、^{なんきょく}そ^{なんきょく}の^{なんきょく}中^{なんきょく}身^{なんきょく}は^{なんきょく}な^{なんきょく}ん^{なんきょく}と^{なんきょく}生^{なんきょく}き^{なんきょく}て^{なんきょく}い^{なんきょく}る^{なんきょく}ペン^{なんきょく}ギ^{なんきょく}ン^{なんきょく}で^{なんきょく}し^{なんきょく}た。ポ^やッ^やパー^やさん^やは^なそ^なの^なペン^なギ^なン^なを^なキャ^なプ^なテン^な・ク^なク^なク^なと^な名^なづ^なけ、^な家^なで^な飼^ない^なは^なじ^なめ^なま^なす。

『しずくの首飾り』 ジョン・エイキン・作 猪熊葉子・訳//岩波書店//93-エ

あらしの^{よる}夜^{よる}に^{きたかぜ}北^{きたかぜ}風^{きたかぜ}を^{たす}助^{たす}けた^うジョ^うーン^うズ^うさん^うは、^う生^うま^うれ^うた^うば^うか^うり^うの^うむ^うす^うめ^うに^うし^うず^うく^うの^う首^う飾^うり^うを^うお^うく^うら^うれ^うま^うす。む^うす^うめ^うの^うロ^うー^うラ^うは^うそ^うの^う首^う飾^うり^うを^うつ^うけ^うて^うさ^うえ^うい^うれ^うば、^うど^うん^うな^うど^うし^うゃ^うぶ^うり^うの^う中^うで^うも^うぬ^うれ^うな^うか^うつ^うた^うり、^う手^うを^うた^うた^うい^うて^う雨^うを^う止^うめ^うた^うり^うす^うる^うこ^うと^うが^うで^うき^うま^うし^うた。と^うこ^うろ^うが^うあ^うる^う日^う、^う首^う飾^うり^うが^うぬ^うす^うま^うれ^うて^うし^うま^うい^う… (「し^うず^うく^うの^う首^う飾^うり^う」)。

少^{すこ}し^{すこ}不^ふ思^し議^ぎな^{みじか}短^{みじか}い^{みじか}お^{みじか}は^{みじか}な^{みじか}し^{みじか}が、^{はい}ぜん^{はい}ぶ^{はい}で^{はい}8^{はい}つ^{はい}入^{はい}っ^{はい}て^{はい}い^{はい}ま^{はい}す。

『がんばれヘンリーくん』

ベバライ・クリアリー・作 ルイス・ダーリング・絵 松岡享子・訳//学研//93-ク

ヘンリー・ハギンズは、小学3年生のどこにでもいるふつうの男の子です。泳ぎに行ったある日の帰り道、ヘンリーは街角で一匹の犬を見かけます。その犬はとてもやせていて、首輪をしていませんでした。ずっと前から犬がほしかったヘンリーは、その犬をアバラーと名づけ、家へ連れて帰ることにします。バスに乗って帰ろうとしたヘンリーでしたが…。ほかに、ペットショップで買った魚がふえすぎたり、友だちのボールをなくしてしまったり、ヘンリーくんのゆかいな毎日がえがかれています。

『すえっこOちゃん』

エディス・ウンネルスタッド・作 ルイス・スロボドキン・画 石井桃子・訳//フェリシモ//94-U

Oちゃんは、ピップ＝ラルソン家のすえっこです。本当の名前はオフェリアといいます。Oちゃんには、おとうさんとおかあさん、3人のおねえさんと3人のおにいさん、2頭の馬、1匹きの黒いネコという大家族がいます。ある日、Oちゃんは人形で遊ぶのにあきてしまい、赤ちゃんのおとうとかいもうとがほしくなります。はじめは2つ年上のチビにいちゃんに赤ちゃん役をやらせてもらおうとしますが…。ほかに、家にとどいたゆうびんをおねえさんとおにいさんのいる学校にとどけに行ったり、家族がいないときにひとりで電話をかけたり…。Oちゃんの行動は、家族の予想をはるかにこえていきます。

『小さいおばけ』 オトフリート・プロイスラー・作

フランツ・ヨーゼフ・トリップ・絵 はたさわゆうこ・訳//徳間書店//94-ブ

むかし、ドイツのある城に小さいおばけが住んでいました。小さいおばけが起きているのは、夜中の12時から1時まで。城のふもとにある町役場の時計のかねの音が合図になっていました。起きているときは、城の中を見て回ったり、外に出てコウモリと遊んだり、友だちのミミズクのシューファーをたずねて話をしたりして、楽しくくらししていました。ところが、シューファーからある話を聞いた小さいおばけは、一度でいいから昼の世界を見てみたいと思うようになります。そしてある日、目をさますと外の様子がいつもとちがっていて…。

『こおり』 前野紀一・文 斉藤俊行・絵//福音館書店//45

夏に食べたくなるこおり。氷は氷でも、白っぽいものと無色とうめいものがあるのを見たことはありませんか。どうしてそんなちがいができるのでしょうか。

この本では、水が氷に変わるときにどんなことが起きているかを、絵を使ってわかりやすく説明してあります。

目の前にある冷たい氷が、地球全体の話にまで広がります。

